〔空穗物語あて宮〕二月中の十日、年のはじめのかうしん出來るに、春宮の君たち御つぼねごとに、あて宮さらぬさきより、殿上たちはきのぢんに、くだものいださむとおほす、よきをりなりとて、殿に聞え奉れ給、宮の御だいにはかねのごきに、こがねのけうち、〇略中ひわりご五十たゞのわりご五十、かひわりごは御かたゞにし給、〇略中こ宮の御かたにとのにまうけられたりし、はこ、ひわりごそへて奉れ給、殿上よりはじめて、宮のうち所々のたちはきのぢんまで、わりご五てなどきよらにしてたまふ、

〔拾遺和歌集十八雜賀〕大貳國章うまごのいかに、わりごてうじて、うたをゑにかゝせける、

元輔

松のこけ千とせをかけておいしげれつるのかひこのすともみるべく

〔枕草子五〕なまめかしきもの

よくしたるひわりご

〔今昔物語二十八〕禪林寺上座助泥缺破子語第九

今昔、禪林寺ノ僧正ト申ス人御ケリ、名ヲバ深禪トゾ申ケル、此レハ九條殿ノ御子也、極テ止事无カリケル行人也、其弟子ニ德大寺ノ賢尋僧都ト云フ人有ケリ、其ノ人未ダ若クシテ、東寺ノ入寺ニ成テ、拜堂シケルニ、大破子ノ多ク入ケレバ、師ノ僧正、破子卅荷許調テ遣ラムト思給ケルニ、禪林寺ノ上座ニテ、助泥ト云フ僧有ケリ、僧正其ノ助泥ヲ召シテ、然々ノ料ニ破子卅荷ナム可入キヲ、人々ニ云テ催ト宣ヒケレバ、助泥十五人ヲ書立テ、各一荷ヲ宛テ令催ム、僧正今十五荷ノ破子ハ誰ニ宛テムト爲ルゾト宣ヒケレバ、助泥ガ申サク、助泥ガ候コソハ破子候ヨ、皆モ可仕ケレドモ催セト候ヘバ、半ヲバ催シテ、今半ヲバ助泥ガ仕ラムズル也ト、僧正此ヲ聞テ糸喜キ事也、然ラバ疾ク調ヘテ奉レト宣ヒツ、助泥然ラバ、然許ノ事不爲ヌ貧究ヤハ有ル、穴糸惜ト云テ立テ去ヌ、